

特集 「建築論とは何か」

現在、建築論が抱える最大の難題は「建築論とは何か」ということであろう。建築論は「建築とは何か」を問う前に、「建築論とは何か」を問わなければならない、じつにもどかしい状況に立ち至っている。しかし、このような状況は建築論だけに限ったことではないだろう。20世紀末にイデオロギーの対立が融解して「歴史の終焉」が唱えられて以来、世界的に見て哲学や思想は力を失っている。理念を闘わせる時代は終わった。その一方で、経済圏が地球規模に拡大するとともに技術開発競争は激化し、人類はハイデガーが予見したとおり、ますます用立て Bestellen へと挑発されている。人類は自己の将来像を描く間もなく、新しい技術の開発へと勤しんでいる。そうして技術は地球全体を覆い、人間の生命にも侵入しつつある。こうした事態のなかにあって、制作することはいったいどうなるのか。建築のテクネーあるいはポイエーシスはどうなるのか。建築論は「建築論とは何か」と自問自答して足踏みしている場合ではない。技術というもっとも現代的な問題は、もっとも建築論的な問題でもある。いまや「建築論とは何か」という問いに決着をつけ、「建築とは何か」という現代的な課題へと前進したい。

田路 貴浩